（様式１）

2024年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

（整理番号）046	提案機関名	鎌倉漁業協同組合

要望問題名　チョウセンハマグリ種苗生産技術開発と更なる増殖に係る調査・指導について

要望問題の内容　【　背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等）】

当漁協では、５年前までハマグリ（チョウセンハマグリ）を対象とした漁業が営まれておりませんでしたが、令和元年より担当普及員の指導を受け、特別採捕許可に基づき鋤簾や貝桁によるハマグリの分布調査を実施し、新たな漁獲対象種としての手応えを掴みました。そこで、漁獲物に400円/kgを放流歩金（親貝１個の漁獲に対して４-７倍の個数の稚貝を放流し、増殖する仕組み）を設定することにより、更なる増殖を図っております。

一方で、磯焼けの進行により、当組合員の基幹となる刺網やみづき漁の主漁獲対象貝類のサザエ、アワビ類が、餌となる海藻類の枯渇により激減しております。ハマグリはプランクトン類を餌とするため、磯焼けの影響を受けず成長・増殖し、組合員が鋤簾や貝桁で漁獲することができるので、新たな漁獲対象種であり、資源を増殖管理すれば手堅い収益として組合員一同期待を寄せており、さらに近い将来に新名産「鎌倉はまぐり」としてブランド化も考えております。

一方で、ハマグリの放流稚貝は、千葉県の海匝漁協より小さめの漁獲物を購入して放流しておりますが、放流用の稚貝を調達できる所は他にないのが現状であります。稚貝調達を他県の一漁協の漁に依存していることは、今後の放流事業の安定化に一抹の不安がございます。

そこで、水産技術センターにハマグリ種苗生産技術開発を要望致します。

加えて、普及指導員には、ハマグリ資源の更なる増殖に係る調査・指導並びにブランド化に向けた支援をお願いいたします。

解決希望年限	①１年以内　②２～３年以内　[③４～５年以内]　④５～１０年以内
対応を希望する研究機関名	①農業技術センター　②畜産技術センター　[③水産技術センター]　④自然環境保全センター

備　考

冬場のワカメ養殖は、三浦半島地区の漁業者の多くが営み、魚閑期の重要な収入源となっております。

回答機関名	水産技術センター	担当部所	企画研究部
対応区分	①実施　[②実施中]　③継続検討　④実施済　⑤調査指導対応　⑥現地対応　⑦実施不可		

試験研究課題名　（①、②、④の場合）

チョウセンハマグリの種苗生産基礎技術の開発

対応の内容等

令和５年度より、チョウセンハマグリの種苗生産技術の開発および資源生態の解明に関する試験研究に着手しました。今後、これらの研究知見からチョウセンハマグリの種苗生産方法の検討及び資源増殖技術を開発し、現場への普及を目指してまいります。

当該地域でのハマグリ資源の更なる増殖につきましては、今年度は鎌倉漁業協同組合による日本水産資源保護協会の補助事業を活用しての種苗放流に合わせて資源調査を行うとともに、来年度以降も同漁協の豊かな海づくり推進協会の補助事業での種苗放流と資源調査に協力していきます。また、引き続き同漁協組合員からなる「鎌倉ハマグリ部会」の総会に合わせての勉強会などの機会を通じて、調査結果を踏まえた資源・増殖管理について指導を行ってまいります。

「鎌倉はまぐり」のブランド化につきましては、ＰＲ活動の強化に向けて、ホームページ作成やマスコミを通じた情報発信等について支援し、早期のかながわブランド登録を目指します。

解決予定年限	①１年以内　②２～３年以内　③４～５年以内　④５～１０年以内
備　考	